ふるさと秋田を見直す好機に

33会総会

今年の例会は140周年記念式典の前日8月31日、ホテルメトロポリタン秋田で、恩師畑澤潤一先生をお迎えし、41人（うち東京同窓会7人、近畿支部2人）の出席で開催。

総会に先だち当日の午後、19人がガイドの名解説を聞きながら、ねぶり流し館や鉱業博物館、羽城館などをじっくりと見学、ふるさと秋田を見直す好機となりました。

総会は阿部幹事の司会で始まり、物故者への黙とう、校歌斉唱、会務報告などが行われ、特に140周年記念の募金事業に対して多くの会員の協力があったことに謝意が示されました。

畑澤先生からの温かい励ましの言葉をいただき、兵庫県から参加した勝平良治君の乾杯で懇親会を開始。しばらくぶりの再会に時の経つのを忘れあちこちに輪が広がり、楽しいひとときを過ごすことができました。

宮崎幹事による校友会歌を熱狂の中、全員で2回大合唱。中田幹事が「来年はもっと多い50人以上の会員と語りあおう」と締めくくり、再会を誓って散会しました。

翌日、記念式典には21人が出席、有意義な一日となりました。

（佐藤満雄　記）

絵本歌集で合唱 56人再会楽しむ

若菜会の集い

平成25年10月14日、さわやかに晴れわたった体育の日、秋田キャッスルホテルで若菜会の集いが開催されました。県外からの9人を含め女子2期生（昭和30卒）から17期生（昭和45卒）まで56人が出席しました。

今回は昭和42年卒が担当幹事で、東京でボランティア活動をしている工藤ますみさん（昭和35卒）から送られた絵本歌集のやさしい絵を見ながら合唱を楽しみました。今村和佳奈さん（平成8卒）のピアノ演奏や伴奏で懐かしい歌を高らかに歌い、会場は大いに盛り上がり、大層和やかになりました。

その後、懸案の若菜会の今後について話し合いました。事前に各年次から寄せられた意見では、若菜会が女子生徒の増加によって消滅した昭和45年卒の幹事担当年で自然消滅、発展的解消も仕方がないというのが多数でした。

しかし、今回の話し合いの中で、若菜会が創立され消滅した経緯と昭和51年に秋高女子卒業生の親睦会として同窓会支部若菜会が再出発したいきさつが紹介され、出席者は若菜会への認識を新たにしました。

そして、45年卒までは各年次で担当し、その後については何らかの方法で存続させ、存続の仕方については同窓会の女性役員を中心に原案を示してもらうことで40分にわたる話し合いにピリオドを打ちました。

自然消滅も仕方がないと考えていた方々も、懐かしい友との再会や思いがけない同窓生との出会い、そして楽しい会の雰囲気の中で、やはりこの会を是非続けたいという思いを強くして散会しました。

（昭和42卒　清澤三代　記）

談笑に包まれ 37回目のつどい

昭和25年卒同期会

昭和25年卒第37回同期会は、ゲリラ豪雨などですっきりしない9月21日、秋田市の協働大町ビルに会員34人のほか賛助会員ら4人も参加してにぎやかに開催された。

校歌に続いて同期会歌を斉唱、故人となった仲間に黙とうを捧げた。代表幹事の大友康二君の挨拶の後、能代市在住の竹内伸之君の乾杯の音頭で祝宴に入った。会場は終始談笑に包まれ、余興の出る幕がないまま予定の2時間があっという間に過ぎて、来年の再会を約束して散会した。

（田中孝一　記）

おのば高橋小児科クリニック
院長
高橋　康
（昭和55年卒）
秋田市仁井田字中新田78
TEL 018－892－6600